

ひと すべて みずか せいさつ てんなん ゆえ わ み うみいだ わ
人は須らく自ら省察すべし。「天何の故にか我が身を生出し、我れ
は なん よう きよう わ すで てん もの
をして、果たして何の用にか供せしむる。我れ既に天の物なれば、
かなら てん やく てん やくきよう
必ず天の役あり。天の役共ぜずんば、天の咎必ず至らむ。」省察
ここ いた すなわ わ み いやし い べ し
して此に到れば、則ち我が身の苟くも生く可からざるを知らむ。

【大体の意味内容】

人間は皆、次のことを自ら省みて、考察しなければならない。

「天は、なぜ私をこの世に生み出したのだろうか。天は、私をして、果たして何の用に、
貢献させようとしているのだろうか。私は既に天の物であるから、必ず天から与えられ
た役目がある。その天命を果たすために自分を提供しなければ、必ず天罰を受けるであ
ろう。」

ここまで反省し、考察してくれば、私はただのうのと生きているだけでは済まされない
ということがわかる。

「自分が生きているのではない、生かされているのだ」と、よく言われたものでした。でも同
時に「自分が、何か大したことができる」と、思いついてもいけない。人間ができることなどた
かが知れている」という風に、思い知ることも必要だ、と。

ちっぽけな自分が何をしたらところで、宇宙のような大きなスケールから見れば塵ほどの大きさ
にもならないですが、それでも私たち一人一人は、その「宇宙の意思」のようなものともつなが
っていて、必ず何らかの役割を与えられている、果たすべき天命を持っている、そう覚悟すべき
だということです。

前回読んだ、「志を立てる本心から好きなことをとことん極める」という話と、「天命を果た

す」という話とは、一見矛盾ひじょうしているようにも見えます。「立志」は、個人の意志を重視したもので、「天命」とは外部から強制された仕事、のようにも読めるからです。

ですが、突き詰めてみると、「自分の本心」とは、ほんとに自分が自覚して意識していることそのものなのだろうか。自分が嫌がっていることすら、実は自分が求めてしまったりはしていないだろうか。外から強制されて仕方なく行動していることなのに、それがきっかけで今まで気がつかなかった自分の力や可能性が開花し始めることもある。「生かされている」けれど、これが「本質的な自分の意志」だったのかもしれない、そんな風に実感することもなくありません。みなさんはどうでしょう、似たような経験はありませんか？

大宇宙と小さな個人、かけ離れているようで、実は一つなのかもしれない。「宇宙の意思」を装った、「我が本心」なのかもしれない。

少なくとも、自分が直面し、経験していることは、すべて意味があるのでしょね。それを受け入れるか受け入れないかで、何かを得られたり得られなかったりといった差も生じてしまうでしょう。

自分の生命活動や生命燃焼、そうやってじっへり見つめなおしてみてください。